

令和4年度第4回金沢市DX会議(2023.2.27)

- ・アクションプランに記載のない「システム標準化の対応」、「広域データ連携基盤へのコミット」、「県の電子クーポン事業への参入」への対応は？

アクションプランは随時見直しを行う動的な計画としており、国や県の動向を見据えながら盛り込むなど、柔軟に対応していきたい

- ・アクションプランにおいて、WEB3.0 関連の具体的な事業内容を教えてほしい

デジタルミュージアムはARやVRの活用にとどまり、Web3.0関連技術を使うというわけではないが、新たな文化体験の提供を目指し、メタバースやDAOの活用検討を進めていく

- ・GIGAスクールのデータ利活用の「検討」について、どんなゴールを想定しているのか。国は「検討」で止まっている一方、先進的な取組を進める自治体も存在する中、金沢市はどの程度のレベルを目指すのか。

教育関連データを収集できるシステム環境は整っているが、現状は教員がその環境を使いこなせていない。まずは教員のスキルアップを図り、その後データの利活用を検討していくことを想定している。

- ・障害を持つ方へのデジタルデバインドについて、現状の分析と目指すゴールは設定しているのか。

「障害者情報アクセシビリティ・コミュニケーション施策推進法」の施行を受け設置した専門委員会より「デジタルを活用した支援を進めていく」よう提言を受けている。障害の特性に応じた対応が求められる中、デジタルツールの活用等を推進していくこととしている。

- ・現状分析とそれに対して何をしていくのか明確にしたほうがよい。

また、金沢らしさが見える、目を引くような施策があればよい。

- ・観光DXの具体的な内容を教えてほしい。データ利活用に際しては、旅行事業者等の関係者とのつながりはどの程度想定してるのか。

施策内容は、観光に来られた方の快適度を向上させるような施策。

データ利活用については、県のデータ基盤の活用を想定しており、県の動向を見て進めていく。

- ・ドローン等を活用したデータをオープンにする予定はあるか。

ドローンのデータをオープンにすることは想定していなかった。
行政内部でデータをオープンする際のルールを整備し、オープンデータを推進したいと考えている。

- ・全国的に見て魅力的なコンテンツが豊富な金沢市なので、施策を行う際は、同時に情報発信にも力を入れるべき。
また、アクションプランで課題に感じている点と、キーになる点はどこか。
市民への理解を得ることが大切。デジタルデバイドなど、より理解を深める動きが重要と考える。
- ・アクションプランに数値目標が設定されていないが、「何」を「どうする」という目標があれば教えてほしい。
行政内部の DX とは異なり、社会に向けた施策は具体的な数値目標の設定が困難だったが、今後の DX 会議等での議論を通じて随時プランを更新し、盛り込むことを検討していく。
- ・チャットボットの KPI が未達成である理由を考えるに、市民の求める形で提供されていないのではないかと。理由を追求し、よりよいサービスとしていってほしい。
- ・MaaS における市内バスの決済手段については、世界的にタッチ決済が主流になっていることを鑑み、対応をすべき。
- ・マイナンバーカードを活用したスマートサービスの具体的な内容を教えてほしい。
市の各施設等で発行するカード類をスマホ内に集約するものを想定している。
- ・ユーザー目線での検討をすべき。
- ・DX 会議等の検討の場に、若い方や県外の有識者を入れることで、新たな知見を得ることができ、かつその方々も自分事と捉えて参画してもらえるのではないかと。